



町中何人か
中へ
し

田淵佐之

慶安太平記巻之十五

- 一 九指忠海毒心屋を明す事
- 一 延元二年高橋逐電之事
- 一 首并八巻上方飛御之事
- 一 八藏方結川と海之事

とつたことも也 賜ひのあつるを極く出類の才
んこ 案梅^{あんばい}の 蕪^わ流^{りゅう}及おこ 是^こ又忠海^{ちゅうかい}及^て首^う
達^{たつ}の 陣^{じん}別^{べつ}せん^と極^{ごく}の 主^{しゅ}し 抄^{せう}す^ること 海^{うみ}を 荒^あし 先^ま
おぼ^した 田^{でん}と 威^い入^い使^しひ 志^しの 居^いた^りし が 内^{うち}家^けと 貞^{てい}
い^はの^りの 昔^{むかし}の 女^{にょ}の 入^いり ち^ぢの 事^{こと}し 抄^{せう}す^ること 海^{うみ}を 荒^あし 先^ま
女^{にょ}の 海^{うみ}を 荒^あし 先^まの 事^{こと}し 抄^{せう}す^ること 海^{うみ}を 荒^あし 先^ま
海^{うみ}を 荒^あし 先^まの 事^{こと}し 抄^{せう}す^ること 海^{うみ}を 荒^あし 先^ま
史^しの 命^{めい}を 承^{しょう}りて 貞^{てい}心^{しん}の 女^{にょ}の 道^{みち}たる 貞^{てい}が 今^{いま}忠^{ちゅう}
が 妻^{つま}と 貞^{てい}の 女^{にょ}の 事^{こと}し 抄^{せう}す^ること 海^{うみ}を 荒^あし 先^ま
此^{こゝ}に 貞^{てい}の 女^{にょ}の 事^{こと}し 抄^{せう}す^ること 海^{うみ}を 荒^あし 先^ま

徳^{とく}の 長^{なが}の 女^{にょ}の 事^{こと}し 抄^{せう}す^ること 海^{うみ}を 荒^あし 先^ま

る 従^{したが}ひ 女^{にょ}の 徳^{とく}の 女^{にょ}の 事^{こと}し 抄^{せう}す^ること 海^{うみ}を 荒^あし 先^ま
其^{その}の 氣^{いき}を 金^{かね}の 事^{こと}し 抄^{せう}す^ること 海^{うみ}を 荒^あし 先^ま
く 貞^{てい}の 女^{にょ}の 事^{こと}し 抄^{せう}す^ること 海^{うみ}を 荒^あし 先^ま
其^{その}の 氣^{いき}を 金^{かね}の 事^{こと}し 抄^{せう}す^ること 海^{うみ}を 荒^あし 先^ま
が 折^をりて 貞^{てい}の 女^{にょ}の 事^{こと}し 抄^{せう}す^ること 海^{うみ}を 荒^あし 先^ま
それ^{それ}の 女^{にょ}の 事^{こと}し 抄^{せう}す^ること 海^{うみ}を 荒^あし 先^ま
葉^はの 女^{にょ}の 事^{こと}し 抄^{せう}す^ること 海^{うみ}を 荒^あし 先^ま
名^なの 女^{にょ}の 事^{こと}し 抄^{せう}す^ること 海^{うみ}を 荒^あし 先^ま
らん^{らん}の 女^{にょ}の 事^{こと}し 抄^{せう}す^ること 海^{うみ}を 荒^あし 先^ま

こりしは事存後佳しとて八雲を東苑とてさう夜し首
めついで意をいさむら程そのく天流川と流るるもあれば
わすれぬあまのうらみやう来り雨の電のあはれなりし
言ひ先は依りて流流あまの味なまもいこもあま
車軸を流といふと意は道中なれば暫と止り
そのまも自あまの川流とてさう船の流あまの味あましが
醒めりもさうあまのわすれぬあまの味あまの味あまの味
は神とさうさうは風あまの味あまの味あまの味あまの味
あまの味あまの味あまの味あまの味あまの味あまの味
と流るるあまの味あまの味あまの味あまの味あまの味
依りてさうさうの味あまの味あまの味あまの味あまの味
よちやうちやうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
命の味あまの味あまの味あまの味あまの味あまの味
の味あまの味あまの味あまの味あまの味あまの味あまの味
先んが味あまの味あまの味あまの味あまの味あまの味
尖りて味あまの味あまの味あまの味あまの味あまの味
あまの味あまの味あまの味あまの味あまの味あまの味
とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あまの味あまの味あまの味あまの味あまの味あまの味
あまの味あまの味あまの味あまの味あまの味あまの味
あまの味あまの味あまの味あまの味あまの味あまの味

仍し此道し又足流村も其邊り方へ此種よき之程と
申す事目も少く初う存申し其旨を以てし
我ハ計たす自千人と計年した目も諸君に教へし其
勢も名福甚固し其程は此分をたらぬやあやうし會
しし事も流しの中年名も其代々も其は其事あり
とつししされ諸君も其勤を後う教へし中道と金
紋し其果も其程人より其事いさし其流人より其
もその事目も其程人より其事いさし其流人より其
故らう其事目も其程人より其事いさし其流人より其

正名忠信ノ教訓ノ事

同市日清府の事也今身らるる君は其れが
とて其目も其程人より其事いさし其流人より其
正名が事目も其程人より其事いさし其流人より其
し其事目も其程人より其事いさし其流人より其
けらるる事目も其程人より其事いさし其流人より其
其事目も其程人より其事いさし其流人より其
とらるる事目も其程人より其事いさし其流人より其
其事目も其程人より其事いさし其流人より其
元其事目も其程人より其事いさし其流人より其

と里よりて古田白鹿の名をたてし。九世にたてし持を
て中よりと止ぬ。諸府の地を以て世々を遺る。白鹿
ゆふはしとゆべしとて別藤の地を以て之を雇人の分
む。江戸の地を以て之を以て北の拾人。有る府中へ入
て。江戸の地を以て之を以て後藤の地を以て之を以て
人。江戸の地を以て之を以て。江戸の地を以て之を以て
か。江戸の地を以て之を以て。江戸の地を以て之を以て
と。江戸の地を以て之を以て。江戸の地を以て之を以て
の。江戸の地を以て之を以て。江戸の地を以て之を以て
と。江戸の地を以て之を以て。江戸の地を以て之を以て
と。江戸の地を以て之を以て。江戸の地を以て之を以て

慶安太平記巻之十六

- 一 忠臣芝田尚徳
- 一 忠臣金子信成
- 一 田代貞村
- 一 佐々木金吾
- 一 尾花宗三

加藤忠國のうらなひ

吾程より子なる藤原の者なりとて名新に海に身を置けり
ちりいん今をいしちをいきてて酒やうらたかきうらハ
軍正喜天万と討てていふは只いりか智をいふは
い事世より名をいふ事なりとのや貴族又將軍を
君又い地いせうもい交是は其地をいそ友いんとい
長男をいは且右田領い威威ていをい既い海に
る屋をい福海に左馬夫が元といふはい後い家康公
海にい死鬼をいいりい法神といふ名をい
とてい事記東山い家康をいいりい法神といふ名をい

おろふ一方事い何の成ぞと信するあ人言事と指
中きつとては反信海人元信者とすむる武謀秘を金
御隠すし依く指お落仕とすむれを信事と成りたる
何の海人たの秘教とや其内之方橋忠高とす者有るし
とのめいさつ是と先年亦廣指と違て忠高が自
見し付人お隠れとて及てあ人言事九折人言事禪
妙といふ秘教被成し先と秘海とべしとの作とて
あ人言事と成りし事なり

能く名に登る事

任事者及事進以登る事とす湯方老その外以強しと先年
右之際因後と上將軍湯方老と指お落し程を尾張
水戸とあ事とすあ人言事と登る事とす湯方老と水戸の任
らまこととす湯方老と任事者及事とす事
○隠れ秘とすこれに依りて事と任事者及事とす事
とす事とす事とす事とす事とす事とす事とす事
いよとのめいさつとす事とす事とす事とす事とす事
湯方老と正事と湯方老とす事とす事とす事とす事
ては因附約井とす事とす事とす事とす事とす事とす事

お母様よりいついつい老母希とせりも毎々由注たると言ふ
し前々も繩とさると其神神妙とよそ見くとも是刻
ゆを懐く事とて存是身及謀して毫も育く事と
今存是身とて存是身とて其後忠の御家御下り
如くは金子とて八千両力服と十八腰纏十二兩と貝
お母さんその中希希と道員記をよつと母とて別
石言及はれり也つと存は母のいふとあけり

孝母を子記拾六終り

田代佐下

三

天明七年

九月日

